

NST 栄養ひろば No.46 (2021年5月)

NST 広報係 薬剤部 前嶋 隆弘

NST (栄養サポートチーム) では、職員への栄養に関する情報提供を目的に、奇数月に院内グループウェアを利用して【NST 栄養ひろば】を配信しています。

今回は、『食欲に関わる薬について』をご紹介します。

【食欲と薬について】

食欲不振に対して正しい目的 (主作用) で使用される薬は、そう多くはありません。一方で、本来の目的とは異なる形 (副作用) で食欲を亢進させる薬や、逆に食欲不振をきたす薬は多くあります。今回はこのような食欲に影響する薬剤について、いくつか紹介いたします。

【食欲不振に適応のある薬】

1. 漢方薬

食欲不振に用いられる漢方薬の中で、最も多くの臨床的・基礎的研究が行われている薬は『**六君子湯 (りっくんしとう)**』です。機能的胃腸症に対して胃排出・貯留能の促進作用があり、さらに最近では食欲促進作用を有する**グレリン (消化管ホルモン)**の分泌を促進することが明らかになっています。

薬品名	適応症
六君子湯 (りっくんしとう)	体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、疲れやすい方の胃炎、胃腸虚弱、消化不良、 食欲不振 など
半夏瀉心湯 (はんげしゃしんとう)	体力中等度で、みぞおちがつかえた感じがあり、ときに悪心があり 食欲不振 で腹が鳴って軟便又は下痢の傾向がある方の消化不良、神経性胃炎、胃弱、口内炎など
補中益気湯 (ほちゅうえっきとう)	体力虚弱で、元気がなく、胃腸の働きが衰えて疲れやすい方の疲労倦怠、病後・術後衰弱、 食欲不振 など
十全大補湯 (じゅうぜんたいほとう)	体力虚弱な方の病後・術後の体力低下、疲労倦怠、 食欲不振 など
人参養栄湯 (にんじんようえいとう)	体力虚弱な方の病後・術後の体力低下、疲労倦怠、 食欲不振 、手足の冷えなど ※院外限定・院内診療科限定
平胃散 (へいゐさん)	体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときにはきけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向がある方の急・慢性胃炎、消化不良、 食欲不振 など ※院外限定

2. 健胃消化薬：S・M 配合散

「**食欲不振**、胃部不快感、胃もたれ、嘔気・嘔吐の改善」に適応を持ちます。古くから使用されている薬剤で、消化酵素剤、制酸剤、健胃剤（生薬）が配合された、淡灰色～灰褐色の粉薬で、特異な芳香と味を有します。

3. 消化管運動促進薬

栄養療法において消化管を動かす薬はとても重要です。主に副交感神経を刺激することで効果を発揮します。基本的に**食前**に服用します。

薬品名（成分名）	適応症	作用機序など
ガナトン錠 (イトプリド塩酸塩)	慢性胃炎における消化器症状（腹部膨満感、上腹部痛、 食欲不振 、胸やけ、悪心、嘔吐）	ドパミン D2 受容体拮抗作用によりアセチルコリン（ACh）遊離を促し、更に ACh エステラーゼ阻害作用を有しており、遊離された ACh の分解を阻害します。これらの協力作用により消化管運動亢進作用を示します。
ナウゼリン OD 錠、ドライシロップ、坐剤 (ドンペリドン)	慢性胃炎、胃下垂症、胃切除後症候群、抗悪性腫瘍剤またはレボドパ製剤投与時（成人）、あるいは、周期性嘔吐症、上気道感染症、抗悪性腫瘍剤投与時（小児）、および薬剤投与時の消化器症状（悪心、嘔吐、 食欲不振 、腹部膨満、上腹部不快感、腹痛、胸やけ、あい気）	上部消化管並びに CTZ（化学受容器引き金帯）に作用し、抗ドパミン作用により薬効を発現します。
プリンペラン錠、シロップ (メトクロプラミド)	胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胆嚢・胆道疾患、腎炎、尿毒症、乳幼児嘔吐、薬剤（制癌剤・抗生物質・抗結核剤・麻酔剤）投与時、胃内・気管内挿管時、放射線照射時、開腹術後における消化器機能異常（悪心・嘔吐・ 食欲不振 ・腹部膨満感）	脳幹の消化管中枢に作用して、消化器の機能的反応ないしは運動異常を改善します。また、中枢性嘔吐、末梢性嘔吐のいずれに対しても制吐作用を示します。一方、 <u>血液脳関門を通過するため錐体外路症状や乳汁分泌などの副作用に注意が必要</u> です。

4. 抗不安薬：リーゼ錠（クロチアゼパム）

「自律神経失調症におけるめまい・肩こり・**食欲不振**」に適応を持ちます。心身安定剤としても使用される薬です。視床下部及び大脳辺縁系、とくに扁桃核のベンゾジアゼピン受容体に作用し、不安・緊張などの情動異常を改善します。鎮静や眠気などの副作用には注意が必要です。

※その他、食欲不振に適応は無いが、周辺症状である胸やけや悪心・嘔吐などに「**モサプリドクエン酸塩錠**」、機能性ディスペプシアにおける膨満感などに「**アコチアミド塩酸塩錠**」、消化異常症状に対して消化酵素剤である「**エクセラゼ錠、ペリチーム配合顆粒**」などが用いられます。

【副作用として食欲を亢進させる薬】

副作用として食欲を亢進させる作用が報告されている代表的な薬剤を以下に記載します。

分類	成分名	作用機序など
副腎皮質ステロイド薬	プレドニゾン、デキサメサゾンなど	代表的な副作用として食欲増進を認めます。ただし、高血糖や脂質異常症、消化性潰瘍などの副作用にも注意が必要です。
第2世代抗精神病薬	オランザピン、クロザピンなど	食欲増加には、H1受容体や5-HT _{2C} 受容体の遮断作用の関与が推定されています。高プロラクチン血症には注意で、それに起因する乳汁分泌、無月経、女性化乳房、性欲減退、勃起障害や射精障害などの性機能障害には注意が必要です。
抗アレルギー薬	シプロヘブタジン塩酸塩、オキサトミドなど	ヒスタミンH ₁ 受容体遮断作用とセロトニン受容体遮断作用を有します。中枢神経系において、ヒスタミンやセロトニンは食欲抑制に働くため、遮断作用により食欲増進を惹起します。

【副作用として食欲不振をきたす薬】

副作用はどの薬剤においても起こり得ますが、なかでも消化器系の副作用は頻発であり、胃部不快感、吐き気などの症状から食欲不振をきたすおそれがあります。以下に代表的な薬剤を記載します。なお、食欲不振や悪心は、胃潰瘍や胃癌など内因性疾患が原因となることも多く、また、口腔内乾燥や味覚異常、便秘なども関与するため、薬剤性以外の可能性も考える必要があります。

分類	成分名	作用機序など
麻薬	モルヒネ、コデインなど	延髄の最後野にある嘔吐に対する化学受容器引き金帯 (chemoreceptor trigger zone ; 以下、CTZ と略) のドパミンD ₂ 受容体を活性化させ、CTZを直接刺激することによります。
抗がん薬	イホスファミド、エピルビシン、シクロホスファミド、	血流を介してCTZに到達し、直接刺激を受けてセロトニンが放出されます。CTZには5-HT ₃ 受容体が存在し、セロトニンと結合して嘔吐中枢に刺激が伝達され

	シスプラチン、ダカルバジン、ドキシルビシン など	ます。消化管に存在する腸クロム親和性細胞がセロトニンを分泌し、これが 5-HT3 受容体を介して迷走神経や交感神経を刺激し CTZ や嘔吐中枢に伝達されます。
抗うつ薬（選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI))	フルボキサミン、パロキセチン など	消化管の 5-HT3、5-HT4 受容体を刺激することにより腸管の過活動や、迷走神経を介した刺激により引き起こすと考えられます。
ジギタリス	ジゴキシン、メチルジゴキシン など	胃腸管への直接刺激作用よりも、むしろ副交感神経亢進による蠕動運動の亢進と延髄の嘔吐中枢への直接刺激によると考えられます。
鉄剤	クエン酸第一鉄ナトリウム、溶性ピロリン酸第二鉄 など	胃内で放出された遊離鉄による消化管障害に由来します。クエン酸第一鉄は鉄イオンを遊離しにくく胃腸粘膜に対する刺激が少ない事が報告されています。

参考文献：各薬剤の添付文書

株式会社ツムラホームページ

今日の治療指針 2021 年版

「制吐薬適正使用ガイドライン」2015 年 10 月【第 2 版】一部改訂版 ver.2.2

(2018 年 10 月)

今日の精神疾患治療指針 第 2 版

(文責 薬剤部 前嶋 隆弘)